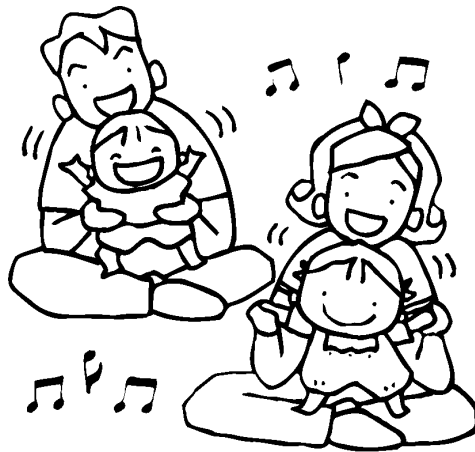


子どもを共に育む『親支援』プログラム
「ほっこり子育てひろば」妊娠期乳幼児期編

「ほっこり子育てひろば」の 活用について

— 既存事業での活用事例集及び様式 —



「子どもを共に育む『親支援』プログラム」
プロジェクト会議 妊娠期乳幼児期部会事務局
京都市子育て支援総合センターこどもみらい館

もくじ

I	はじめに	1
II	事例集を使うにあたって	2
III	支援者の方へ	3
IV	事例紹介	4~10
V	実施報告書について	11
VI	アンケートについて	11
VII	さいごに	11
巻末	「ほっこり子育てひろば」実施報告書 テーマとねらい	

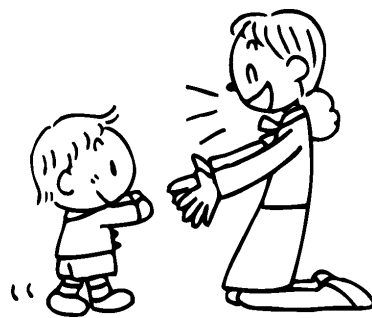
I はじめに

京都市では、平成 20 年 10 月に、「子どもを共に育む『親支援』プログラム」プロジェクト会議を設置し、1 年半に及ぶ協議を踏まえ、平成 22 年 4 月から「ほっこり子育てひろば」を本格実施しています。

これは、「子どもを共に育む京都市民憲章」の趣旨を踏まえ、親自身が喜びと共に子どもを育ていけるよう、「親としての心構えや必要な技術」を身につけるとともに、不安や疑問、悩みを乗り越えるためのプログラムで、60～90 分程度のプログラムで進行例を作成しています。

この度、プログラムの本格実施から 3 年を経過し、更なる「ほっこり子育てひろば」の展開を図るため、既存事業も活用しながら幅広く実施するための参考として事例集を作成いたしました。

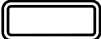
今後も、様々な場で子育てを支援する関係者の皆さまのご協力のもと「ほっこり子育てひろば」の実施の輪を広げ、親育ちや仲間づくりの場につなげていきたいと考えています。



Ⅱ 事例集を使うにあたって

保健センター、子ども支援センター、保育園（所）、幼稚園、児童館、つどいのひろば、昼間里親などにおいては、子育て中の保護者が参加する場合があります。そのような場を利用して、保育者等の専門職が支援者（ファシリテーター、P3参照）となり、命の大切さや、子どもの成長や悩みを話し合い、楽しい時間を共有し、お互いの思いに共感することで、それぞれが子育てを振り返り、考えるきっかけとなることを願い、多様な場に対応して簡易に実施ができるよう、事例集を作成いたしました。

特に保育園（所）、幼稚園では、保護者会やクラス懇談会などの機会を通して幅広く実施していただき、「京都市で子どもを育ててよかった」と実感する風土を育んでいきたいと願っています。

6つの事例を掲載しましたが、事例中の  にある保護者の話し合いが本プログラムのねらいとするところです。

事例を参考に、参加人数やその場の雰囲気などを考慮し、以下の基本的な考え方に基づいて実施していただければ結構です。

2つの基本的な考え方

① 支援者がいる

保育者等の専門職が支援者（ファシリテーター）となり進行し、聴き手になり、参加者をつなぐ存在になります。

② テーマに沿った話し合い

プログラムにあるテーマに沿って、参加者が話し合い、子育てに必要な知識、情報を提供・共有するとともに、親自らが育つための気づきや学びを引き出します。



Ⅲ 支援者の方へ

「ほっこり子育てひろば」事業については、保護者会やクラス懇談会などで、子育てについての悩みや困っていることなどが話題になり、保育者が支援者となり、保護者同士が話し合い、子育てに必要な知識や情報を提供・共有すると共に、保護者自らが育つための気付きにつながった場合、当事業が実施されたと判断できるのではないかと考えます。

その際の実施時間については、プログラムどおり行った場合60～90分程度ですが、時間が許す範囲において、テーマのねらいを達成できるよう工夫していただければ結構です。

1. 事前に参加者へ説明を

- 一人一人が主役です：参加者はみな平等です。一人で話すぎないようにしましょう。
- お互いの意見を尊重します：お互いの考えや感じ方を尊重し、耳を傾けましょう。相手を否定することは言わないようにしましょう。
- ここだけの話にします：話し合いの中で知った個々の内容や個人情報は、置いて帰りましょう。

2. 話しやすい雰囲気

- 和やかな雰囲気になるように、アイスブレイク（参加者の心をほぐす簡単なゲーム）をしてみましょう
- 支援者は語り手ではなく聴き手になりましょう
- 参加者同士をつなぐ存在になりましょう
- 批判したり、支援者の意見を押し付けたりしないようにしましょう
- 参加者の個人情報は漏らさないようにしましょう

3. 話し合う時の基本原則

- 参加者を一人の個人としてみましょう
- 参加者一人一人を受けとめましょう
- 支援者が中心になるのではなく、参加者が主体となって問題を解決していくことで仲間意識が高まるようにしましょう
- 参加者同士が傷つけ合うことのないよう配慮し、自由で安心できる場とするために、必要に応じて行動に一定の枠を設定し制限しましょう
- 参加者の達成感や自己信頼を高め、参加してよかったという意識につなげるようにしましょう

IV 事例紹介

保護者会やクラス懇談会、乳幼児クラブ等々、保育園（所）や児童館・つどいの広場・子ども支援センターには親子が集う様々な場があります。

そのような場では、保護者同士が、子育ての悩みや困りごとを話すことも多いと思います。自分の悩みを話し、いろいろな人の話を聞く中で、「私だけが悩んでいるのではないのだと気づき、救われた。」という声をよく聞きます。

本冊子では、6つの事例を紹介していますが、どの場面もよくある光景ではないでしょうか。

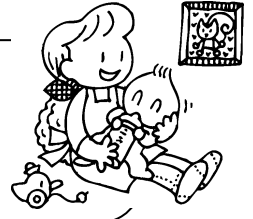
様々な場で実践の輪を広げ、親育ちや仲間づくりの参考になることを願っています。



事例1 プレパパ・プレママ教室編

テーマ：「赤ちゃんのいる生活イメージトレーニング」

(対象：妊娠中の方とその家族)



支援者「今日は、プレママ・プレパパ教室にご参加いただきありがとうございます。出産するときのことや、今まで夫婦だけでいたのに、赤ちゃんが生まれるらどうなるのか、夜は寝られるのか、熱がでたらどうしようなど、いろいろな心配ごとやわからないことなどがあるのではないのでしょうか。

今日は、子育てを経験されているお母さん方にもご参加いただいていますので、みなさんの悩みや不安なことなど出し合って、先輩ママさんからのアドバイスをもらいながらいろいろ話し合ってみましょう。

それでは自己紹介していただく中で、今不安に感じておられることを一言ずつお話ししてください。」

～自己紹介～

Aさん「〇〇です。私はあと一ヶ月くらいで出産です。赤ちゃんが生まれることはとても楽しみで、『早く赤ちゃんに会いたい』と毎日わくわくしている反面、全くわからないことばかりで『赤ちゃんに泣かれたらどうしよう…。』と考えるだけで不安でいっぱいになります。」

支援者「Aさんは楽しみだけど心配，という気持ちですね。先輩ママさんはどうされていましたか？」

<先輩ママさん>

Dさん「私は、毎日泣かれてイライラしたこともあってけど、夫が私によく声をかけてくれてそのことで救われました。」

Eさん「泣いたらとにかく、『どうしたのかな？』って考えて毎日接しているうちに、今は、『おっぱいがほしいんだ』、『おしっこでたんだ』、『だっこしてほしいんだ』、って少しずつわかるようになってきたんです。泣いて気持ちを訴えているんだと感じました。」

Fさん「私も、泣かれていろいろ心配しましたが、生後1か月の時に保健師さんが家に来てくれて相談できたのでよかったです。」

<妊婦さん>

Bさん「赤ちゃんってそんなに泣くんですね。でも、みなさんのお話で心づもりができました。」

Aさん「保健師さんが来てくれるんですか。それを聞いて安心しました。」

支援者「赤ちゃんが泣くのは、赤ちゃんがお母さんにお話を聞いてほしいという気持ちの表れなんですね。Aさん，気持ちが楽になって赤ちゃんが生まれてくるのも楽しみですね。」



事例2 子育て支援 井戸端会議編

テーマ：「離乳食（対象：0歳の子どもの持つ親）」



支援者「こんにちは。今日は井戸端会議にお越しいただきありがとうございます。今日は「食事」特に「離乳食」について皆さんと自由に意見交換していきたいと思えます。最初に、お知り合いの方もおられると思いますが、初めての方もいらっしゃると思いますので、自己紹介をしたいと思います。お名前と何か一言をお願いします。」

～自己紹介～

Aさん「Aです。よろしくお願いします。そろそろ月齢からも離乳食を始めようと思っていて、あちこちの話を聞いたり、本を読んだりしているのですが、それによると『大人が食事をしているのを見て、口をもぐもぐ動かしたり、よだれがでたりし始めると、離乳食開始のサインだ』とよく書いてあるのですが、うちの子はそういったサインをだしてくれないので困っているのですが…。」

支援者「さきほど、Aさんから『離乳食を始めるにあたって色々な情報を得ていたが、子どもからのサインがみられない』というお話がありました。皆さんで意見交換してみようと思います。Bさんはいかがでしたか？」

Bさん「この子は、よだれは出てなかったけれど、試しに離乳食を始めてみたら、うまくいきました。」

Cさん「うちも離乳食を始める月齢になった頃、離乳食をあげても全然食べませんでした。仕方が無いから少し時期を待ってから始めてみたら食べたので、Aさんも少し日にちをあけたらどうでしょうか？」

Dさん「私は、親が食事をする時、子どもを抱っこして食べることもあるのですが、ある時私の食事中に子どもにも離乳食を与えたら食べました。今のところ食べています。」

Eさん「Dさんのように、私も難しく考えずに気軽にあげたら食べました。それと、運動量が多くなると食べるようになりますよ。」

Aさん「ありがとうございます。皆さんの話を聞いて気が楽になりました。難しく考えないでやってみます。」

支援者「Aさん気持ちが楽になってよかったですね。」

事例3 地域の子育て支援編

テーマ：「親子でいっしょにあそぼう（対象：0歳から2歳の子どもを持つ親）」

支援者「こんにちは。みらいっこひろばにお越しいただきましてありがとうございます。
まずは自己紹介をしましょう。お母さんのお名前とお子さまのお名前、ニック
ネームでもいいですよ…。」

～自己紹介～

支援者「赤ちゃんは触れられることが大好きです。一緒に遊ぶことが子どもの健やかな
育ちには大切です。子どもと楽しく遊ぶためには、大人自身が気持ちのゆとり
や遊び心を持つことが大切です。

それでは今から遊びますが、いきなり遊び始めるのではなく、始める前に「～
して遊ぼうね。」など言葉をかけてあげてください。子どもだからわからないの
ではなく、小さな赤ちゃんでも、始める前に言葉をかけてあげることで気持ち
の準備をします。ここが大事なポイントです。それでは京都のわらべうたから
始めましょう。『おすわりやす いすどすえ』『ゆらゆら たんたん』『あたま かた ひ
ざ ぼん』『あがりめ さがりめ』です。」

～わらべうた～

支援者「親子で向かい合ってみてどうでしたか？子どもさんの笑顔が見られると、こち
らまで幸せな気持ちになりますね。お母さんがうれしくなると、お子さまもき
っとうれしくなると思いますよ。

次に、子育てについてお話ししましょう。遊びで困っていることや不安なことは
ありませんか？」

Aさん「公園に遊びに行ったとき、『遊んでおいで』と言っても私から離れないんです
よ。」

Bさん「あります、あります。『みんな楽しそうに遊んでいるのに、』なんて思います。
家では、家事が忙しくて、ついテレビに子守りしてもらうことが多いですが、
こんなときはどうしていますか？」

Cさん「外では、けがをしないか心配で、私がついて回っているという感じです。」

Dさん「この間、私の母親が来たときに、『おすわりやーすいすどすえ♪』と言って
膝にのせてどすーんとしたらキャッキョと笑って、もっとやってくれとせ
がんでいました。」

Aさん「この年齢は、子ども同士で遊ぶこともありますが、親といっしょに遊
ぶことも大切なんですね。」

支援者「ありがとうございました。子どもの育ちは個人差があるので、今のお
子さまのありのままの姿をまるごと受けとめるようにしましょう。」



事例4 クラス懇談会編1

テーマ：「自我のめばえと生活習慣（対象：1歳から2歳の子どもを持つ親）」

支援者「今日は、お忙しいところ、そら組クラス懇談会にお越しいただきましてありがとうございます。

・

最後に少し時間をいただき、お子さまの育ちについて考えてみたいと思います。子どもは、成長に合わせて自我が芽生えていきます。そら組では、お昼寝前のパジャマを一人で着替えようとする子が増えてきました。この間、皆がお昼寝に行っても一人でボタンを留めようとしている子がいました。『留めてあげようか?』と言っても『イヤ!』と言って頑張っているのですが、首の下のボタンなのでなかなか留められません。それを見ていたお友達がスッと来て『とめたるか?』という『ウン』とうなずき、留めてもらってさっさとお昼寝に行きました。これを見て『友達ってすごいなあ』と感心しました。お家ではどうですか?」

Aさん「最近、今はまだ出来ないことを『自分でする』と言って聞かないので、出かける時は大変です。」

Bさん「うちも同じです。今朝も靴を履くのに時間がかかりました。」

Cさん「そういえば、最近（Dさんの子どもの）△△くんはTシャツを前後ろ逆に着ているのをよく見かけますね。」

Dさん「そうなんです、後ろ前なのはわかっているようなのですが、私が『前と後ろが反対だよ』と言っても聞かないのです。」

Bさん「たしかに、自分で出来たということがうれしいのでしょうかね。」

Cさん「そうですね。△△くんは『どんなもんだい』というようないい顔をしていますね。」

支援者「いろいろと出ましたが、Aさんからもありましたように、自分でやりたがる時は、子どもの気持ちを大事にして見守りながら援助することが大切ですね。Dさんからもありましたように、叱るよりもお子さまのありのままを受けとめることが大事ですね。子どものやりたい気持ちを尊重しながら少しずつ生活習慣を身につけていきましょう。出来たらほめてあげましょうね。

最後に、子育ては大変な面がたくさんありますが、同時に大きな喜びもあると思います。これからもその喜びを多く見つけていければいいですね。」



事例5 クラス懇談会編 2

テーマ：「子どもとのかかわり方（対象：3歳児から5歳児の子どもを持つ親）」

支援者「今日は、お忙しい中、ほし組クラス懇談会にお越しいただきましてありがとうございます。
ございます。

最後に少し時間をいただき、お子さまの成長に関する事で、『子どもとのかかわり方』について考えてみたいと思います。

先日、このようなことがありました。

〇〇ちゃんが楽しそうに園庭で三輪車に乗っていました。すると、□□くんも乗りたくて『かわって〜。』と〇〇ちゃんに言いました。〇〇ちゃんは三輪車が楽しくて、知らん振りして走って行ってしまいました。□□くんは追いかけて行き、ハンドルを持って『かわって！』と言いましたが、〇〇ちゃんは『いや！』と言って離そうとしません。何回か続いたあと、とうとう□□くんは思いがふれて手を出してしまい、〇〇ちゃんは三輪車から転げ落ちて大泣きをしました。周りにいた子どもたちは、『だいじょうぶ？』と言いながら側へ来ました。□□くんは三輪車を持ったまま、バツの悪そうな表情をして立っていました。このようなトラブルはよく起こりますが、担任としては、裁判官になって良し悪しをつけるのではなく、お互いの気持ちを伝えることを大事にしています。ご家庭では兄弟やお友達同士でこのような場面はありませんか？」

Aさん「その時、ちょうどお迎えに来ていたのですが、□□くんが困ったような顔をして立っているのを見ましたよ。」

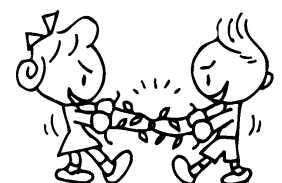
Bさん「〇〇ちゃんも□□くんも三輪車が好きなんですね。」

Cさん「うちの子も、この間みていると『じゅんぱんじゅんぱん！』と言いながら三輪車を追いかけて横取りしてしまったので、『こら！』と言おうと思ったのですが、『三輪車に乗りたかったんやねえ。』という、コクンとうなずいていました。」

Dさん「うちは兄弟でしょっちゅうこのようなことがあります。」

Bさん「お互いの気持ちを聞いてあげることが大事なんですね。」

支援者「どうしても、してはいけないことは『いけません』『だめ』と言ってしまいがちですが、Cさんからもあったように、『三輪車に乗りたかったんやねえ』とまずは子どもの気持ちを受けとめることで、子どもは『わかってもらえたんだ』と安心感もちます。その積み重ねで、親子の信頼関係が育まれていくのではないのでしょうか。子どもはいつも大人の背中を見えています。社会の中で生きていくための生活習慣やマナーなど、子どもに見られていることに意識をすることで、子どもは学んでいくのでしょうか。」



事例6 保護者会編

テーマ：「いつくしむ（対象：全世代（0歳児以上）の子どもを持つ親）」

支援者「今日は、みらいっこ幼稚園の保護者会にお越しいただきまして、ありがとうございます。ございます。



・
・

最後に少し時間をいただき、お子さまの育ちについて考えてみたいと思います。みらいっこ幼稚園は皆さま方のお子さまを大切にお預かりしてまいります。幼稚園だけでお子さまが育つということはありません。家庭教育の一番の先生は、保護者の皆さまだと思えます。

そこで、我が子を「いつくしむ」とは、ということを皆さま方で少しの時間ですが話し合ってみてほしいと思います。

我が子もお友だちもみんなかけがえのない存在であるということはお分かります。つい叱ったり我が子について困ったりすることもあるかと思えます。

毎日の忙しさに追われてつい忘れてしまいがちですが、今日は、我が子が生まれたときのことを思い出して、どういう思いでその名前をつけたのか、はじめて抱っこした時の気持ちや熱が出て心配した時の思いなどを一言ずつ話し合ってみてほしいと思います。まずは、このテーマにちなみ、絵本「いのちのまつり」を読みます。」

～絵本の朗読～

支援者「それでは、お子さまへの思い、毎日の子育てで感じていることなど、Aさんからお話しいただけますでしょうか。」

Aさん「いつも口を開けば叱ってばかりいます。」

Bさん「私も同じです。叱った後は自分が嫌になります。」

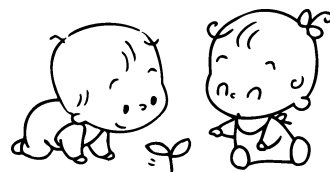
Cさん「私もそうでしたが、今の絵本を見て私自身の親の姿が浮かんできました。」

Dさん「叱った時は寝顔を見て心の中で『ごめんね』と言うときもあります。」

Bさん「寝顔を見るとどうして叱ってしまったんだろうと思います。次はDさんのように『ごめんね』と言ってみます。」

支援者「皆さんの思いをお聞きして、改めて命の尊さを感じました。今はお子さまへの思いをお聞きしましたが、皆さん方もご両親から命を受け継いだ“かけがえのない存在”であると思えます。

お子さまにその思いを何らかの形で伝えることは大事でしょうね。お誕生日や何かの機会にお話ししてみるのもよいかと思えます。」



V 実施報告書について

ご記入のうえ、こどもみらい館へ提出してください。FAXでも結構です。

VI アンケートについて

参加者からアンケートをとっていただき、提出してください。プログラムの一層の推進を図るため、活用させていただきます。

VII さいごに

保護者の方は子育てに関して様々な手段で知識や情報を得ていますが、育児書等を書いてあるとおりにならない、ということで悩んでいる方も多く見られます。それは言い換えると、真剣に子育てに向かっているという姿の中での悩みです。この悩みを他の親がどのように考え子育てをしているのか、どのようなことで悩んでいるのかを聞きたいという思いを、親同士が話すことで、支援者が伝えるより気づきが深くなります。

子育ての悩みを出し合う中で、自分の子育てはこれでいいのかと考えるきっかけや、これでよかったんだと安心し確認できる場となります。

様々な場で、気軽に保護者同士が話し合う機会を提供し、親自身が不安や疑問、悩みを乗り越えると共に、仲間づくりのために「ほっこり子育てひろば」を積極的に実施していただきますようお願いいたします。

(参考)

冊子「子どもを共に育む『親支援』プログラム ほっこり子育てひろば」



「ほっこり子育てひろば」実施報告書

平成 年 月 日

※ () 内に○印を記入してください。

記入者 _____

実施テーマ※	<input type="checkbox"/> 赤ちゃんのいる生活イメージトレーニング <input type="checkbox"/> 離乳食 <input type="checkbox"/> 親子でいっしょにあそぼう <input type="checkbox"/> 自我のめばえと生活習慣 <input type="checkbox"/> 子どもとのかかわり方 <input type="checkbox"/> いつくしむ <input type="checkbox"/> 受けとめる <input type="checkbox"/> 認める <input type="checkbox"/> つながる <input type="checkbox"/> 歩む <input type="checkbox"/> 身につける		
実施日時	年 月 日 () : ~ :	実施場所	
対 象		参加人数	親 名 (子 名)
実施者 (支援者)	所属 _____ 氏名 _____ 合同で実施した場合の団体名 _____		
実施にあたって※	<input type="checkbox"/> 新たに実施 <input type="checkbox"/> 既存事業で実施 (事業名: _____) *既存事業活用事例集を参考に <input type="checkbox"/> した <input type="checkbox"/> していない		
ねらい について	達成できたこと (_____) 達成できなかったこと (_____)		
プログラムに※ ついて	<input type="checkbox"/> プログラムどおりに実施 <input type="checkbox"/> プログラムを変更して実施 変更した点 [_____]		
実施者の 評価・反省 今後の課題	実施者としての満足度 <input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> 不満足 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin-top: 10px;"></div>		

(参考) 2ヶ所以上合同で実施した場合、「実施場所」欄を併記の上、1枚にまとめて記入してください。

テーマとねらい

妊娠期乳幼児期編

<各テーマ共通のねらい>

- ☆参加者が不安や悩みを語り,他の参加者や支援者が共感し,語り合うことで参加者の不安や悩みを和らげる
- ☆参加者同士が活発に意見を交流できる場を設け,仲間づくりを援助する

テーマ	ねらい	話し合いのテーマ (全部又は一部を活用する)
赤ちゃんのいる生活イメージトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> ☆出産後の生活を具体的にイメージするために必要な情報,技術や知識の提供 ☆知識の不足や誤解から生じる不安や疑問の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ★妊娠前までの自分自身の生活が赤ちゃんの生活リズムにに応じてどのように変化するのか ★生活の変化によって生じるストレスや制限などについてパートナーとどのように支え合っていくか ★言葉の通じない赤ちゃんと授乳や抱っこの仕方,言葉かけ,子守唄などを通してどのようにコミュニケーションをとっていくのか
離乳食	<ul style="list-style-type: none"> ☆子どもの成長に合わせた食の提供をしっかりと行うために必要な情報や知識の提供 ☆知識の不足や誤解から生じる不安や疑問の解消 ☆食生活の大切さや手軽な離乳食の作り方を知る ☆食べ方には個人差があるため心配しすぎないように気付いてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ★離乳食から卒乳までの期間や過程はどの子どもも同じなのか ★離乳食はいつもきっちり手間隙をかけて作らなければならないものか ★食と生活リズムは子どもの成長にどのように影響するのか
親子でいっしょにあそぼう	<ul style="list-style-type: none"> ☆親と子のふれあいや一緒に遊ぶことが子どもの情緒の発達に及ぼす影響について情報や知識を提供し,その大切さについての気づきと理解を促す ☆わらべ歌や手遊びを提供する ☆一人一人の子どもの育ちにはそれぞれに違いがあることについて理解を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ★子どもの育ちの過程において,様々な遊びが子どもの育ちにどのような役割を果たしているのか ★子どもとふれあうことや一緒に遊ぶことが親にとってどのような機会となっているのか ★遊びが示す子どもの育ちは,どの子どもも同じように進んでいくのか
自我のめばえと生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ☆自我の確立や生活習慣の確立の重要性について必要な情報や知識の提供 ☆知識の不足や誤解から生じる不安や疑問の解消 ☆子どもの自主性を伸ばすためには子どもの思いを理解することが重要であることを親が自ら気づき,理解し,納得するよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> ★食事,睡眠,排泄などの生活習慣を身につけていくのにどう向き合うか ★子どもは親自身が願うように成長するものなのか ★子どもが親の思いどおりにならないときに焦りや怒りなどの負の感情を高ぶらせることはないか。またそのときにどのように対応しているか。

テーマ	ねらい	話し合いのテーマ (全部又は一部を活用する)
子どもとのかかわり方 (多 児とのトラブルとしつけ)	☆子どもの育ちやかかわり方に関 する情報や知識の提供 ☆知識の不足や誤解から生じる不 安や疑問の解消 ☆子どもの気持ちを理解したうえ でのかかわりが大切であること について気づきと理解を促す	★子どもが約束ごとやルールを学 びとって成長していく過程にお いて、遊びや子ども同士のけんか などの経験がどのような役割を 果たしているか ★社会のルールなど子どもにとっ て理解の難しいことを伝えよう とするときに、大人はどのように することが望ましいのか

全世代共通編

テーマ	ねらい	ポイント
いつくしむ	☆子どもは「かけがえのない存在」であり、「大切な存在」であることを感じるとともに自分自身も大切な存在であることを考える ☆「かわいがって、大事にする」意味を持つ”いつくしみ”の思いを子どもに伝えていくことの大切さを感じる	★日々の子育ての中で感じていることの話し合い ★子どもが生まれた頃の話し合い
受けとめる	☆子どもとの日頃の会話やふとした行動、表情等から子どもの気持ちや思いを理解する ☆子どもの思いを受けとめるために必要な、親としての心構えを考える	★親子の話し合いの基本である「聴くこと」を体感する ★「子どものことがわかっていない」「子どもにわかってもらえない」と思う体験を出し合う ★出されたエピソードをもとにロールプレイを行う
認める	☆子どもの長所や短所は親の認識によって変わるものであることに気づく ☆子ども一人一人の個性やあり様を認める ☆「自分は親にまるごと受け入れてもらっている」「自分は大切な存在なのだ」と子どもが感じるよう「自尊感情」を育む大切さを考える	★子どもの「いいところ」「気になっているところ」の話し合い ★「いいところ」「気になっているところ」の子どもへの伝え方について考える ★声をかける、ほめる、スキンシップをとるなど、子どもの存在を認める行動が「自尊感情」を高めることにつながることを確認する
つながる	☆子育ては周りのいろいろな人とかかわりや支えの中で成り立つものであることを認識する ☆地域・社会の協力があって子どもたちは、健やかに育っていくものであることを認識し、頼れる地域社会のあり方を考える ☆親が地域の活動に目を向け、関わりを振り返るきっかけとする	★誰がどんな時にどんなことで子育てに関わっているかを話し合い、子育てと地域の関わりを考えるきっかけとする ★子どもが育つうえでの望ましい地域のあり方について話し合い、自らもどのように関わりを持つのがよいのかを考える機会となるよう促す

作成 平成25年12月

「子どもを共に育む『親支援』プログラム」プロジェクト会議
妊 娠 期 乳 幼 児 期 部 会 事 務 局
京都市子育て支援総合センターこどもみらい館

TEL 075-254-5001
FAX 075-212-9909